

## 「第17回コンクリート甲子園」について(結果)

2025年2月18日  
北海道生コンクリート工業組合

2024年12月7日(土)、「第17回コンクリート甲子園」が香川県生コンクリート工業組合技術試験センターにおいて開催されました。

今回は、全国から過去最多の44校45チームが挑戦、予選(9/28)を勝ち抜いた10チームが本選で競い合いました。

北海道ブロックからは札幌工業高校、釧路工業高校の2校が挑戦、予選を勝ち抜いた札幌工業高校が本選出場を果たしましたが上位入賞は叶いませんでした。

道工組は、学校の意向に応じ技術指導(分会)を行うとともに、本選出場旅費の補助を行いました。

### 1. 第17回コンクリート甲子園(結果)

#### 《競技内容》

##### 強度部門

優勝 兵庫県立篠山産業高等学校  
準優勝 徳島県立市阿南光高等学校  
第3位 広島市立広島工業高等学校

##### プレゼンテーション部門

優勝 木更津工業高等専門学校  
準優勝 広島市立広島工業高等学校  
第3位 香川県立高等専門学校

##### デザイン部門

優勝 徳島県立市阿南光高等学校  
準優勝 広島市立広島工業高等学校  
第3位 高知県立安芸高等学校

#### 総合順位

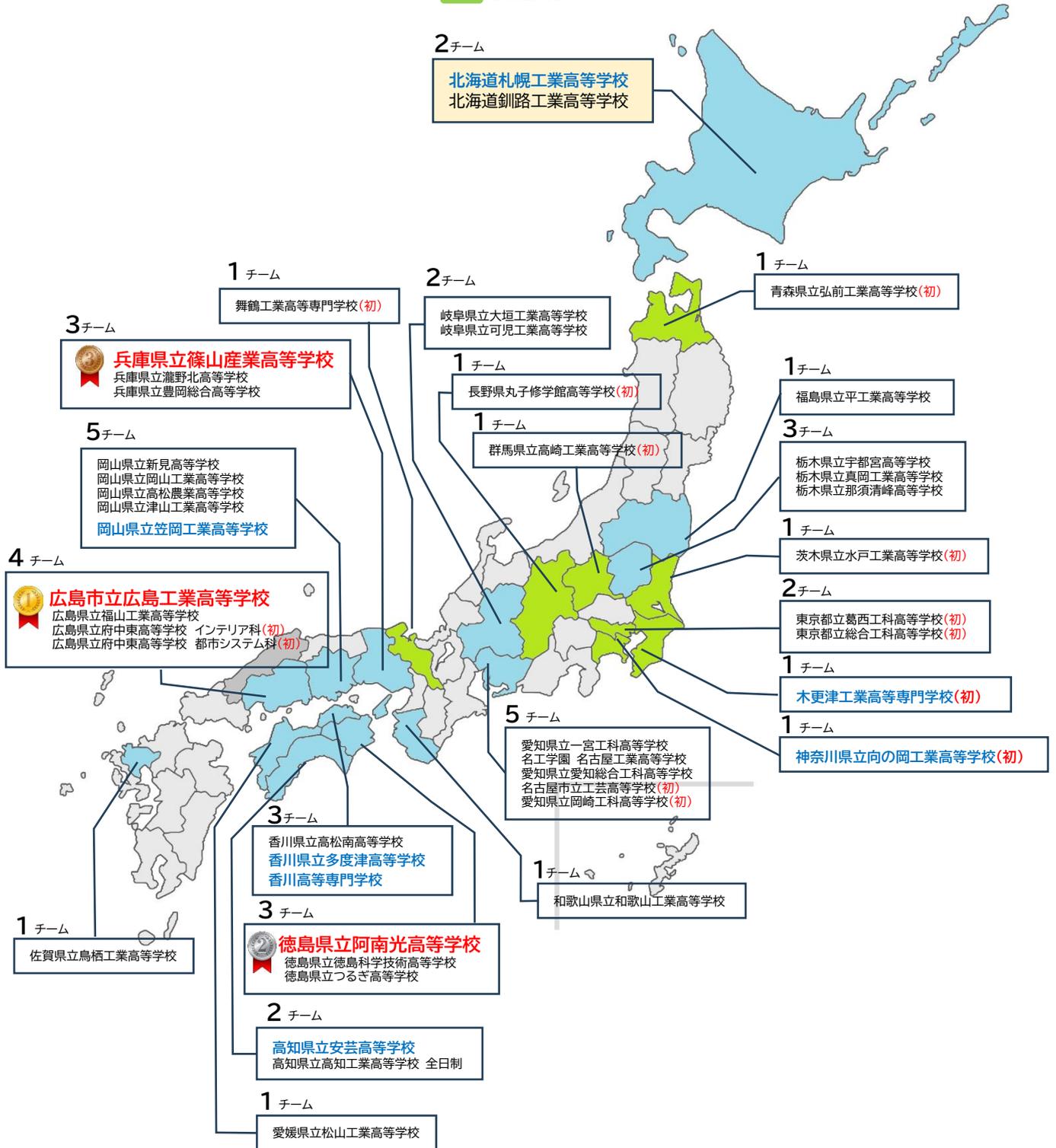
優勝 広島市立広島工業高等学校  
準優勝 徳島県立市阿南光高等学校  
第3位 兵庫県立篠山産業高等学校

第8位 北海道札幌工業高等学校

# 《第17回コンクリート甲子園 結果》

全44校45チーム 青字は本選出場 10校

■ は初出場都県



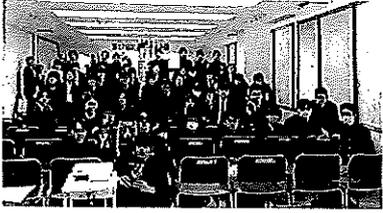
# 広島市工が2連覇 「高レベルの大会に」

全国の建設系高校や高等専門学校がチームで「徳島大学大学院教授」による審査の結果、広島市立広島工業高等学校が2年連続3回目の総合優勝を挙げた。

第17回コンクリート甲子園「が7日、香川県高松市の香川県立コンクリート工業組合技術試験センターで開催された。今回は過去最多となるエントリー45チームのうち、予選を通過した10校が同日、供試体の圧縮強度試験やプレゼンテーションを行った。審査委員会

審査委員長・橋本親典氏は「今回は史上最多となる参加校数のなかで開催できたことを大変うれしく思う。選手の技術も上がり、非常にレベルの高い大会になってきている。練習の成果を發揮し記録にも記憶にも残る大会になることを願っている」とおぼろげに話した。

来賓の池田昇人香川県知事は「関係者のご尽力があり、今年も香川県で開催できることに感謝を申し上げる。賞状には



総合優勝チームの作品(上)と大会後の記念撮影

香川県関係者最後となるこの大会が思い出の「コマ」なることを心から祈念している。審査員「学生連帯は、過去にない激戦を繰り広げて、非常にレベルが高い戦いになっていく。これも皆機材自備から生コンに對して熱意をもった研究し、技術力も上げた賜物であらうと願っている」と祝辞を寄せた。

審査は、強度部門、デザイン部門、プレゼンテーション部門の3部門で実施した。強度部門は、軽量かつ目標強度の20N/㎡に最も近いこととし、各チーム3本の供試体を作成し競い合った。デザイン部門は「新しいコンクリート甲子園マスコットキャラクター」をテーマに、供試体に塗装を施し、デザインの塗装やコンセプトを審査。プレゼンテーション部門は各校の圧縮強度試験中に審査員に対して5分以内でプレゼンを実施。プレゼン後は審査員からの質問に回答した。審査委員の採点に基づき各部門の順位を決定するとともに、3部門の合計得点で総合順位を決

定。総合部門、各部門の上位3チームと審査員特別賞1チームを表彰した。総合優勝は、広島市立広島工業高等学校。強度部門で3位、プレゼンテーション部門、デザイン部門でそれぞれ2位となった。供試体の圧縮強度平均値が20・8N/㎡。軽量骨材×サライトの重さ強度を中心に軽さを意識し、日向磐石との割合を調整することで最終的に4対6の比率で20N/㎡ちょうとを目指した。デザイン面では、供試体の愛称を「ネバーレクン」、キャラクター名を「コゴラ」とし、「夢に向かってコゴラ進歩」をテーマにデザイン。もちろんが地道に作業することと学生がコンクリートを製作する様子が似ていることからキャラクターにもぐらを選定。また社会で話題となつているキャラクターを意識し、一体だけのキャラクターとした。

講評で橋本審査委員長は「今回の目標強度は低強度の20N/㎡に設定したが、これは作製が難しい強度だ。目標強度に近いチームも多く、大変喜

県立藤山産業高等学校	広島市立広島工業高等学校
【強度部門】第1位	【強度部門】第1位
兵庫県立藤山産業高等学校	学校 第3位
南光高等学校	【デザイン】第1位
広島市立広島工業高等学校	【デザイン】第2位
【プレゼンテーション】第1位	【プレゼンテーション】第2位
木更津工業高等学校	【審査員特別賞】
川東立向の岡工業高等学校	【審査員特別賞】

11月24日に北海道の魅力を伝えるMBSのラジオ番組「二大山嶺介のなんの北海道2100」に、北海道札幌工業高等学校土木科の本進出場メンバーが出演。大会の魅力や思いを語った。

# 広島工業高校が連覇

## 甲子園 準優勝は徳島阿南光

第17回コンクリート甲子園本選が7日、高松市の香川県立コンクリート工業組合技術試験センターで開かれ、過去最多4校45チームによる予選を突破した10校がしのぎを削った。総合部門優勝は広島市立広島工業高校建築科が、2年連続で栄冠に輝いた。徳島県立阿南光高校都市環境システム科は準優勝、兵庫県立篠山産業高校電気建設工学科建設コースは3位の成績を取った。

競技は各校が提出した試体作製の過程や工夫の発表を審査する。200mmのコンクリート供試体3本について強度部門40点、フレキシション部門30点、デザイン部門15点の配点で審査する。強度部門は3本平均の軽量さと目標強度20N/mm<sup>2</sup>への近さで競う。目標強度未滿の場合は無得点となる。フレキシション部門は供試体作製の過程や工夫の発表を審査する。5分間の発表後に10分間の程度審査委員との質疑応答を行う。デザイン部門は供試体の塗装とコンセプトで審査。デザインのテーマは「新しいコンクリート甲子園」だった。



総合優勝した広島工業のプレゼン



デザイン部門を制した徳島県立阿南光の供試体

イトと日向産石を採り、試行を重ねて、理想の目標強度と質量を実現する最善の比率を、メサライト4、日向産石も決めた。その組み合わせ、強度試験の結果は目標強度20・8N/mm<sup>2</sup>と参加校中最も近い値だった。質量は2・5kgだった。

デザインは地味な色調を進め「建築」する方向をモチーフに、総優勝の徳島県立阿南光は、デザイン部門を制した。コンクリートやスチールコンクリートやプレキャストコンクリートなどの組み合わせを、配合比率やイトやフラッシュを、強度部門も2位とトップに迫った。

総合3位の兵庫県立篠山産業は強度部門優勝を挙げたことで総合得点を伸ばした。強度22・4N/mm<sup>2</sup>、質量2・1kgと両項目ともに高水準だった。

開会式が初出場ながら結果を残した。本県工業高等学校専門学科環境都市学科は阿南光に次いで、コンクリート部門2位、デザイン部門3位、フレキシション部門2位、デザイン部門2位と全3部門で3位入賞した。

総合優勝の徳島県立阿南光は、デザイン部門を制した。コンクリートやスチールコンクリートやプレキャストコンクリートなどの組み合わせを、配合比率やイトやフラッシュを、強度部門も2位とトップに迫った。

ゼンに寸割を加えた独自性が評価された。実行委員会の琢磨雅人実行委員長はあいさつで、「参加校も増えている。6分程度のプレゼンは原稿を読まず、堂々と自分の言葉で話せる」と話した。

大会結果は次の通り。【総合部門】▽優勝 広島市立広島工業(2年連続)▽準優勝 徳島県立阿南光▽3位 兵庫県立篠山産業【強度部門】▽優勝 徳島県立阿南光▽準優勝 徳島県立阿南光▽3位 兵庫県立篠山産業【フレキシション部門】▽優勝 徳島県立阿南光▽準優勝 徳島県立阿南光▽3位 兵庫県立篠山産業【デザイン部門】▽優勝 徳島県立阿南光▽準優勝 徳島県立阿南光▽3位 兵庫県立篠山産業



沼田委員長

### 池田県知事が出席

#### 来年から舞台は東京へ

来賓として全国生コンクリート工業組合連合会の斎藤昇一会長が出席した。「生コン」は堤防、ダム、道路、法面と、防災や防災に非常に貢献している。災

害時は地元の生コン会社がすぐに復旧を手伝う。我々の産業は地域貢献の使命を感じている。将来を担う若い皆さんと一緒に、地域

の安全確保や貢献と一緒に取り組んでいきたい」と語った。来年度は千葉県船橋市の全生連中央技術研究所で開催されることになり、



橋本委員長

「3年生は後輩に意を託してもらい、1、2年生は大会に臨んでほしい」と伝えた。

池田県入生コンクリート協会が初めて出席した。生徒を激励することにも、国土交通省の勤務時代に、土木工学コンクリートを学んだ学生時代を振り返りながら「コンクリート甲子園は、コンクリートがますます大きくなっていくことを願っています。舞台が移っても、香川工組はコンクリート甲子園をバックアップしていきたいと思」と話した。



斎藤会長



池田知事